

線形符号の Relative Generalized Rank Weightと、その セキュアネットワーク符号への応用

栗原 淳

SITA2014 ワークショップ
2014年12月10日

今日の発表内容

- ① セキュアネットワーク符号化の紹介
- ② この発表で紹介する研究の狙い
- ③ 新しい符号パラメータの紹介
- ④ 符号パラメータとセキュアネットワーク符号化の安全性

今回の発表の内容は、東工大 植松先生・松本先生との共同成果

- ① セキュアネットワーク符号化の紹介
- ② この発表で紹介する研究の狙い
- ③ 新しい符号パラメータの紹介
- ④ 符号パラメータとセキュアネットワーク符号化の安全性

ネットワーク符号化 [ACLY00, LY03]

複数ノードで構成されたネットワーク上でのデータの転送において、

- 従来方式(ルーティング)： 中間ノードは、受信データをコピー・転送
- ネットワーク符号化： 中間ノードは、**受信データを(線形)演算して出力**

ネットワーク符号化は、ルーティングと比べてネットワーク上でのデータ伝送効率が良いなどのメリットがある

ネットワーク符号化の広がり

理論面での展開の例:

- 分散ストレージ用符号・再生成符号への拡張,
- Index Coding with Side Information, Coded-Cachingとの関係性,
- など.

実際の適用が期待できそうな応用研究分野の例:

- TCP/IPの輻輳制御への適用¹
- Information-Centric Networkingでの符号化キャッシュ方式への適用²
- など.

¹TCP/NC, Coded-TCP

²CodingCacheなど

本発表は、「ネットワーク符号化されたネットワークに【盗聴者が存在した場合】のセキュリティ対策技術」について.

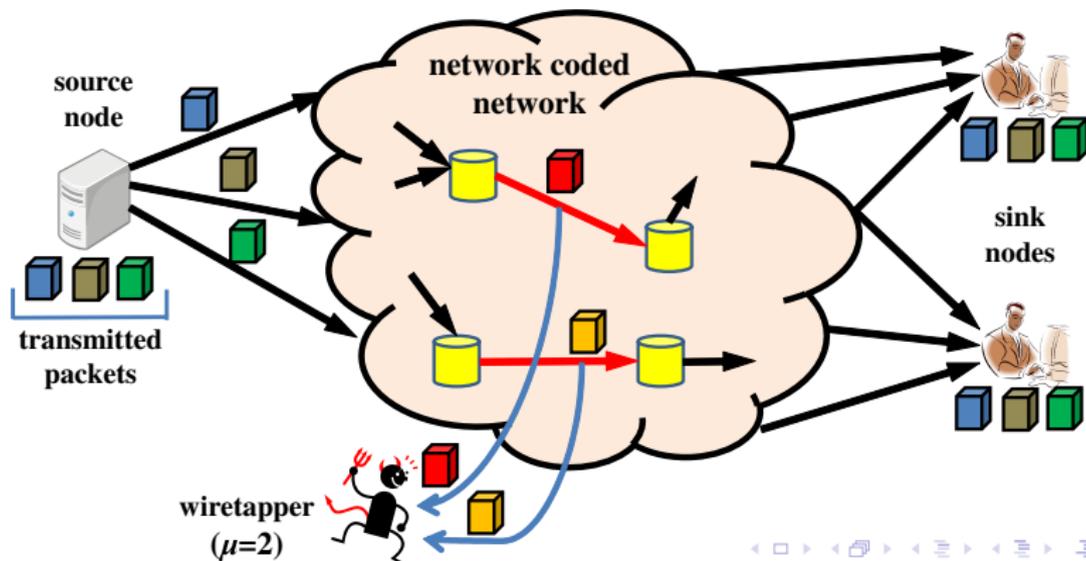
⇒ セキュアネットワーク符号化

セキュアネットワーク符号化問題 [CC11, CY02]

【仮定】

- 単一ソースでの(ネットワーク符号化による)マルチキャスト
- ネットワーク上の μ リンクを盗聴する盗聴者が存在

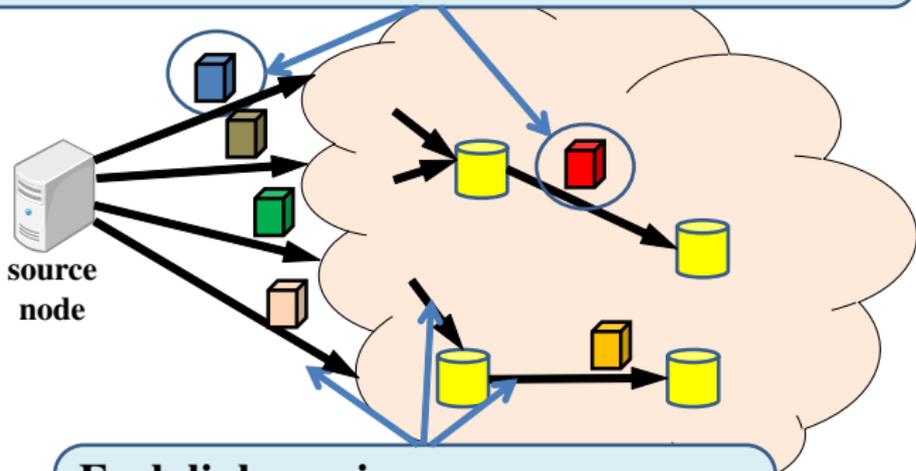
【ゴール】秘密メッセージ S を、盗聴者へは漏らさずに、正規のシンクノードへマルチキャストする



もうすこし詳しく：ネットワークの仮定

有向非巡回グラフで表された、遅延のないネットワーク上で、
単一ソースでのマルチキャスト

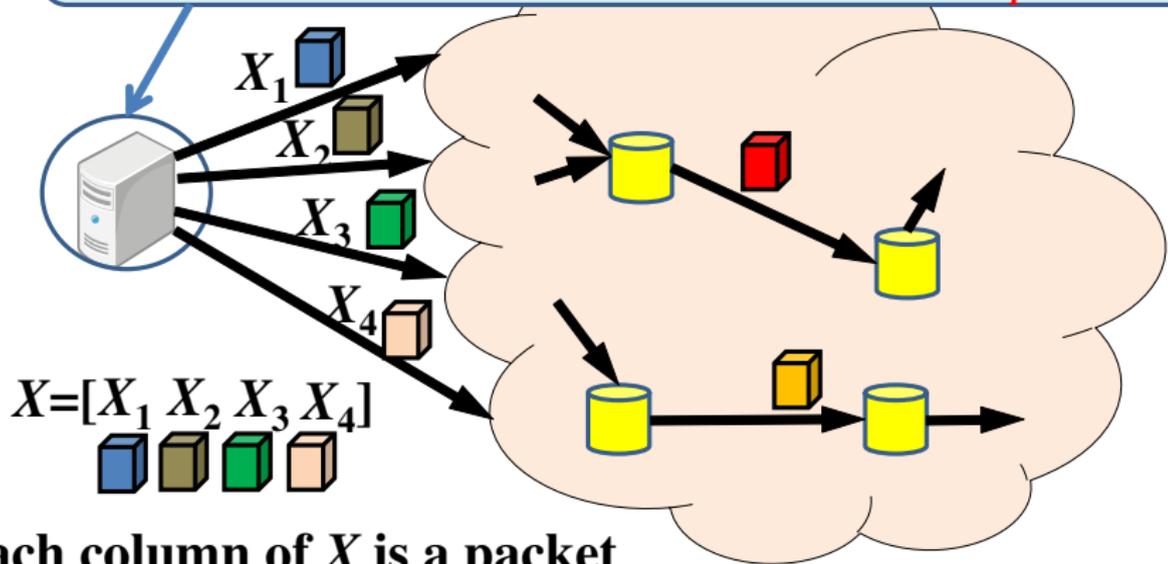
packet: sequence of m symbols in \mathbb{F}_q ,
represented by a vector $[x_1, x_2, \dots, x_m]^T \in \mathbb{F}_q^{m \times 1}$

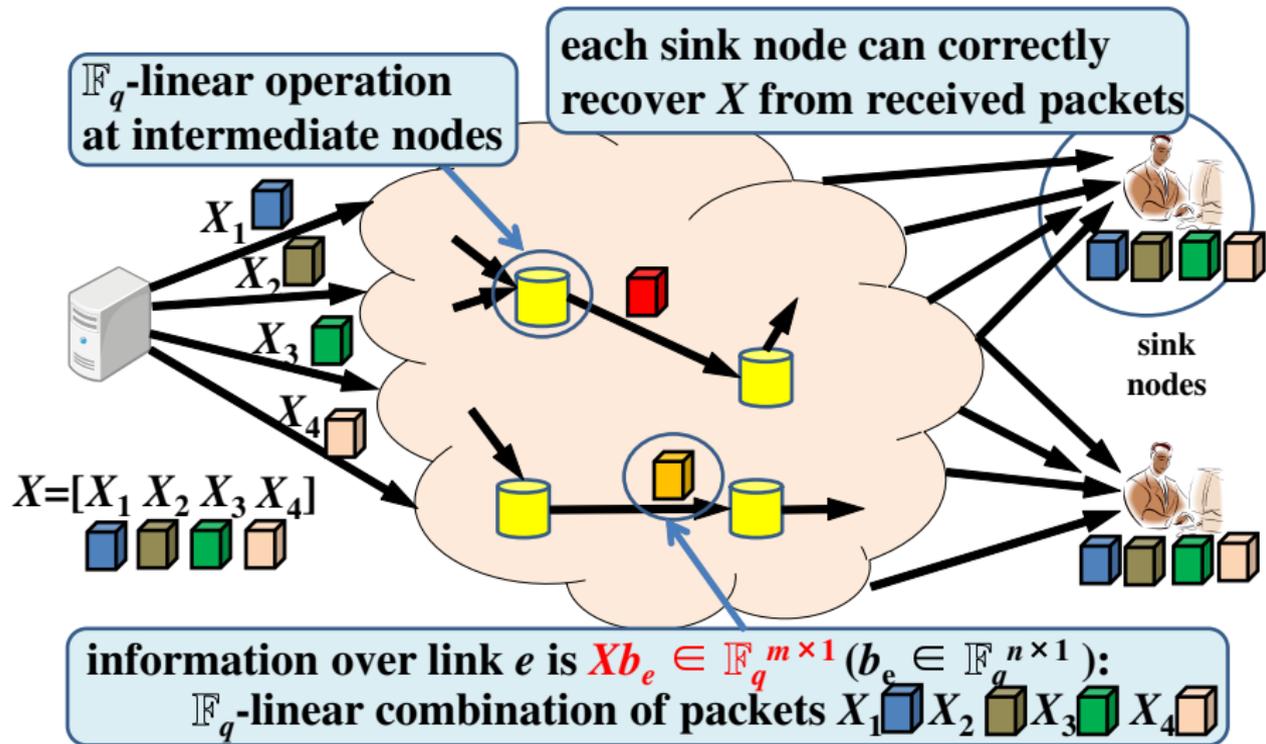


Each link carries

- single \mathbb{F}_q -symbol per one time slot,
- a packet over m time slots.

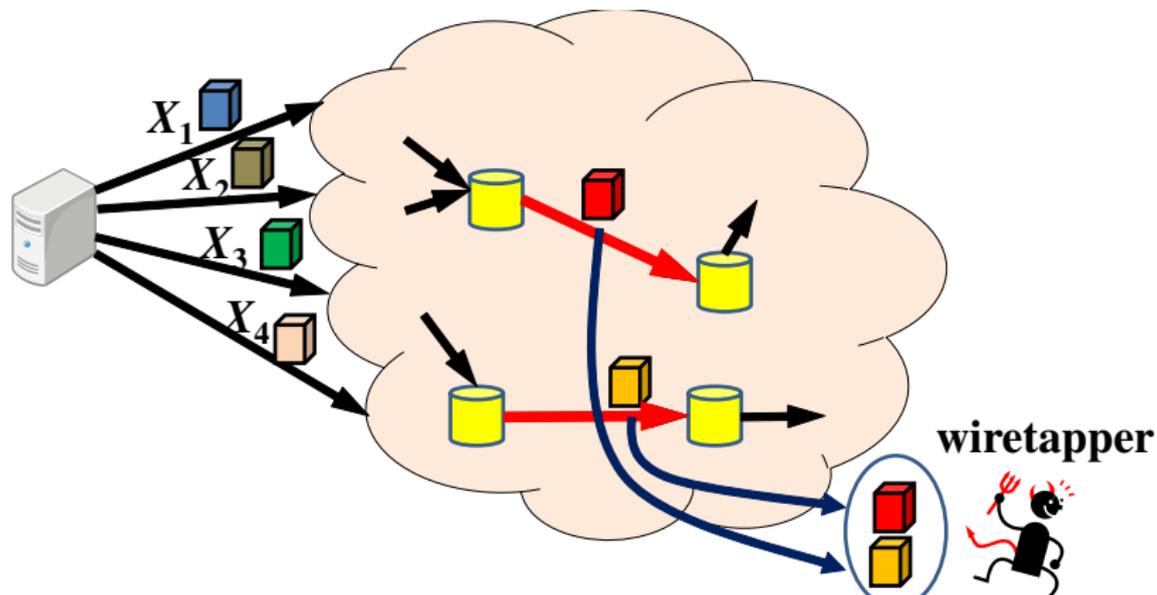
n packets is transmitted from n outgoing links,
represented by an $m \times n$ matrix $X \in \mathbb{F}_q^{m \times n}$





もうすこし詳しく：盗聴者が得る情報

盗聴者は任意に選んだ μ リンクを盗聴する



information obtained by the wiretapper is $W = XB \in \mathbb{F}_q^{m \times \mu}$:

μ \mathbb{F}_q -linear combinations of packets X_1 X_2 X_3 X_4

- 送信パケット : $X = [X_1, \dots, X_n] \in \mathbb{F}_q^{m \times n}$
- ネットワーク上のリンク e に対して定まるベクトル :
 $b_e = [b_1, \dots, b_n] \in \mathbb{F}_q^{n \times 1}$
- 盗聴者がアクセスする μ リンク : e_1, \dots, e_μ

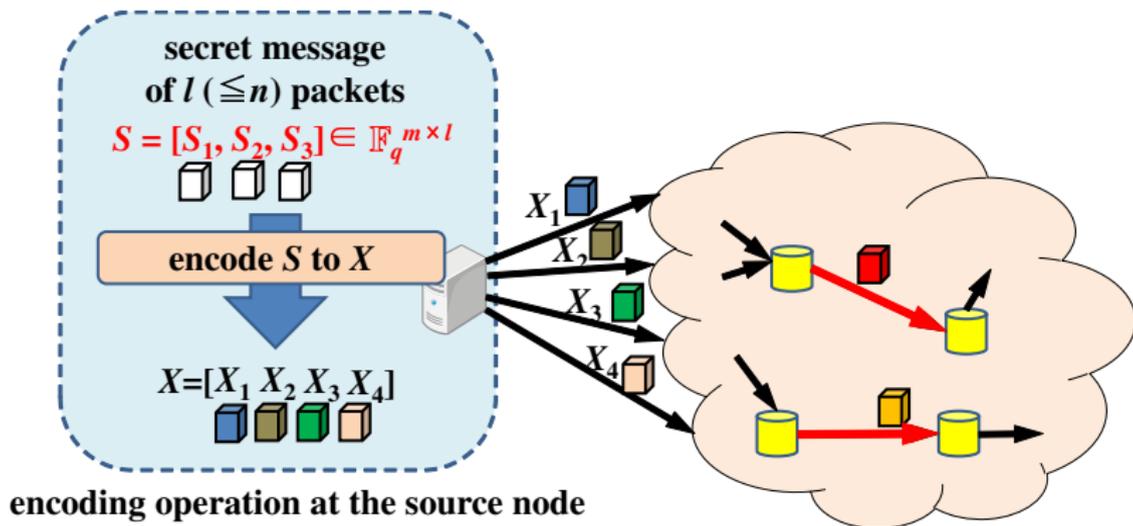
このとき、盗聴者が得る情報 W は以下のように表される

$$\begin{aligned}
 W &= X \underbrace{\begin{bmatrix} b_{e_1}, \dots, b_{e_\mu} \end{bmatrix}}_{\in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}} \in \mathbb{F}_q^{m \times \mu} \\
 &= B \in \mathcal{B} \text{ (盗聴行列)}
 \end{aligned}$$

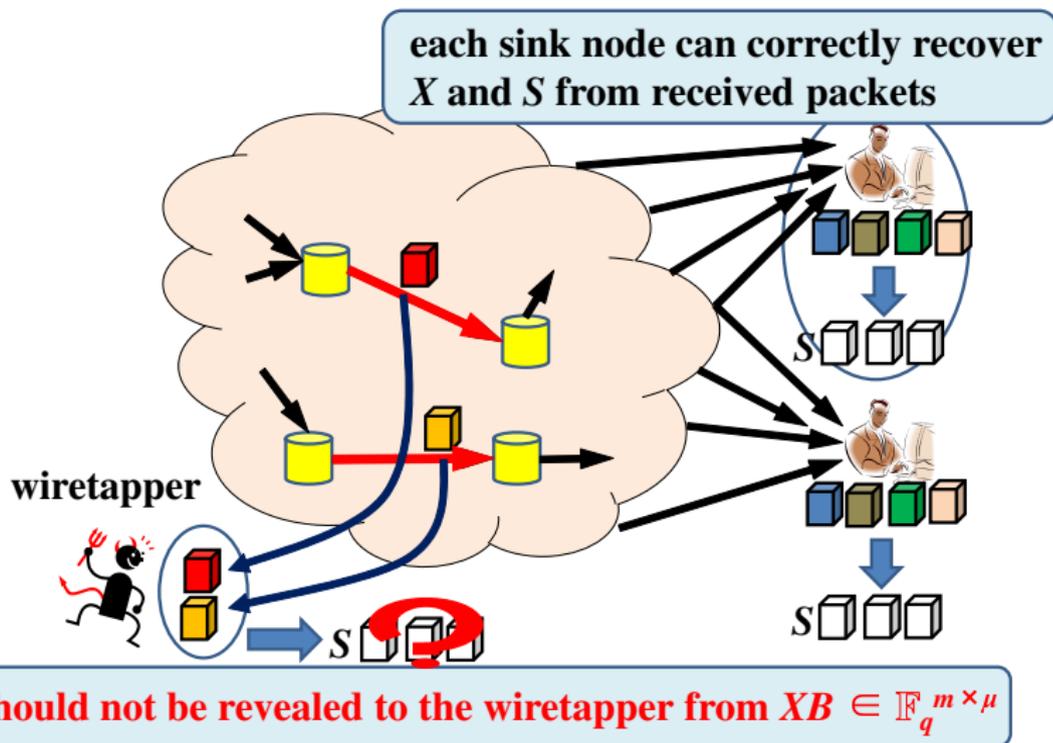
\mathcal{B} : 盗聴される μ リンクの組み合わせで決まる盗聴行列 B の集合

もうすこし詳しく：セキュアネットワーク符号化とは

盗聴行列の集合 \mathcal{B} に応じた符号化により l パケットの秘密メッセージ $S \in \mathbb{F}_q^{m \times l}$ ($l \leq n$)から X を生成し



シンクノードは正しく S を復号でき、盗聴者は S に関する情報を得られないようにする手法のこと



- ① セキュアネットワーク符号化の紹介
- ② この発表で紹介する研究の狙い
- ③ 新しい符号パラメータの紹介
- ④ 符号パラメータとセキュアネットワーク符号化の安全性

セキュアネットワーク符号化でできたらうれしい事

【符号化手法の設計の問題】

- ネットワーク構造 = 盗聴行列の集合 \mathcal{B} を元に符号化方法を設計するのは計算量が多い
 - さらに、ネットワーク構造が未知の場合や時変の場合³に対応できない
- ⇒ 【常に同じ符号化方法】で、【どんなネットワークでも一定の安全性を保てる】やり方があると、とてもうれしい
(ユニバーサルなセキュアネットワーク符号化方法)

³ランダムネットワーク符号化[HMK⁺06]

Silva-Kschischang ユニバーサルセキュアネットワーク符号化 [SK11]

【情報理論的な意味で安全】な⁴【ユニバーサル】な手法、
基づく構成要素とその条件は、

- \mathbb{F}_{q^m} -線形符号(部分空間) $C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$, $m \geq n$
- その \mathbb{F}_{q^m} -線形部分符号 $C_2 \subsetneq C_1$, $\dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 = \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - l$
- ただし C_1 と C_2 はMaximum Rank Distance (MRD) 符号.

⁴かつ誤り訂正能力もある

Silva-Kschischang法[SK11]の安全性

\mathbb{F}_{q^m} -線形MRD符号: C_1 and C_2

$$(C_2 \subsetneq C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n, m \geq n, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 = \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - l)$$

[SK11, Theorem 7]

Silva-Kschischangの $S \in \mathbb{F}_q^{m \times l}$ から $X \in \mathbb{F}_q^{m \times n}$ の生成手法は、ネットワーク構造に依存せず、任意の $\mu \leq \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 = \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - l$ リンクの盗聴について S の情報を一切漏洩しない。

ついでにユニバーサルな誤り訂正能力もある⁵

[SK11, Theorem 12]

Silva-Kschischangの $S \in \mathbb{F}_q^{m \times l}$ から $X \in \mathbb{F}_q^{m \times n}$ の生成手法は、ネットワーク構造に依存せず、任意の $t < \lfloor (n - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1) / 2 \rfloor$ リンクで発生した(挿入された)誤りを訂正・正しく S を復号できる。

⁵この定理はネットワーク符号そのものをfeasible(誤りがなければ必ず復号できる)だと仮定して書き換えています

疑問

- C_1, C_2 がMRD符号ではない場合、安全性（と誤り訂正能力）はどうなるのか？
- C_1 と C_2 のどんなパラメータが、セキュアネットワーク符号化の安全性を表しているのか？

私たちの研究の狙いは、これらの疑問を解消し、線形符号の世界とネットワーク符号化の世界をつなげること、そして古典的な符号理論の文脈でセキュアネットワーク符号化を捉える道筋を作ること。

ざっくり成果

- ⇒ 任意の $C_2 \subsetneq C_1 \subsetneq \mathbb{F}_{q^m}^n$ の新しい(相対)符号パラメータを提案し;
- ⇒ その符号パラメータを使って、安全性・誤り訂正能力を厳密に見積もれることを示した

Silva-Kschischang法[SK11]の符号化手法

$C_2 \subsetneq C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$: \mathbb{F}_{q^m} -線形MRD符号⁶ with $m \geq n$.

秘密メッセージのパケット数 : $l = \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2$

秘密メッセージ : $S = [S_1, \dots, S_l] \in \mathbb{F}_{q^m}^l = \mathbb{F}_q^{m \times l}$

Nested Coset Coding

- ① 任意の同型写像 $\psi : \mathbb{F}_{q^m}^l \rightarrow C_1/C_2$ で, $S = [S_1, \dots, S_l]$ をコセット $\psi(S) \in C_1/C_2$ に対応させる.
- ② $\psi(S)$ から $X = [X_1, \dots, X_n] \in \psi(S) \subsetneq \mathbb{F}_{q^m}^n$ をランダムに選択.

得られた $X_1, \dots, X_n \in \mathbb{F}_{q^m}$ のそれぞれを m 次元ベクトル=1パケットとみなして送信

⁶まだMRDの性質は気にしなくて大丈夫

Silva-Kschischang法[SK11]の C_1, C_2 の直感的役割

$C_2 \subsetneq C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$: \mathbb{F}_{q^m} -線形MRD符号

秘密メッセージ $S \in \mathbb{F}_{q^m}^l \leftrightarrow$ コセット $\psi(S) \in C_1/C_2$.

C_1 - 誤り訂正能力を与える. X として C_1 に属すベクトルのみを使うことで, 誤り訂正が可能となる. ただし, $C_1 = \mathbb{F}_{q^m}^n$ とすることで誤り訂正機能はオフにできる.

C_2 - 秘密メッセージの秘匿能力を与える. X をコセット $\psi(S) \in C_1/C_2$ からランダム選択することで, 秘匿を行っている. $C_2 = \{0\}$ とすることで秘匿機能はオフにできる.

- ① セキュアネットワーク符号化の紹介
- ② この発表で紹介する研究の狙い
- ③ 新しい符号パラメータの紹介
- ④ 符号パラメータとセキュアネットワーク符号化の安全性

\mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間の q 乗 [Sti90]

ベクトル $x = [x_1, \dots, x_n] \in \mathbb{F}_{q^m}^n$ について, $x^q \triangleq [x_1^q, \dots, x_n^q]$.

\mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間 $V \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ について, $V^q \triangleq \{x^q : x \in V\}$.

$\Gamma \triangleq \{V \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n : V \text{ is } \mathbb{F}_{q^m}\text{-linear}, V = V^q\}$.

$V^* \triangleq V + V^q + V^{q^2} + \dots + V^{q^{m-1}}$.

- ① $V \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ が $V \in \Gamma \Leftrightarrow V$ の基底が \mathbb{F}_q の要素で書ける.
すなわち $B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}$ の \mathbb{F}_{q^m} -線形の列空間を $\langle B \rangle$ として,

$$\{\langle B \rangle \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n : B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}\} = \{V \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n : V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V \leq \mu\}.$$

- ② V^* は, V を包含する Γ 中の最小の \mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間

Relative Generalized Rank Weight (RGRW)

i -th RGRW

\mathbb{F}_{q^m} -線形符号 $C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ および部分符号 $C_2 \subsetneq C_1$ について,

$$M_{R,i}(C_1, C_2)$$

$$\begin{aligned} &\triangleq \min \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V : V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2 \cap V) \geq i \right\} \\ &= \min \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V : V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2 \cap V) = i \right\}, \end{aligned}$$

ただし, $0 \leq i \leq \dim C_1/C_2 = l$.

Gabidulinのランク重み

$$x = [x_1, \dots, x_n] \in \mathbb{F}_{q^m}^n$$

$\mathcal{G}(x) \subseteq \mathbb{F}_{q^m}$: x_1, \dots, x_n で張られる \mathbb{F}_{q^m} の \mathbb{F}_q -線形部分空間

ランク重み [Gab85]

$x \in \mathbb{F}_{q^m}^n$ について, $w_R(x) \triangleq \dim_{\mathbb{F}_q} \mathcal{G}(x)$.

最小ランク重み [Gab85]

\mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間 $C \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ について $d_R(C) = \min\{w_R(x) : x \in C \setminus \{0\}\}$.

MRD符号: $d_R(C) = n - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C + 1$ を満たす符号 $C \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$

RGRWと最小ランク重みの関係

1st RGRW $M_{R,1}(C_1, C_2)$ は, w_R を使って以下のように表せる.

$$M_{R,1}(C_1, C_2) = \min\{w_R(x) : x \in C_1 \setminus C_2\}.$$

⇒

RGRWと最小ランク重みの関係

\mathbb{F}_{q^m} -線形符号 $C \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ に対して, $M_{R,1}(C, \{0\}) = d_R(C)$.

RGRWはGabidulinの最小ランク重みの一般化

Relative Generalized Hamming Weightとの関係

$V_I = \{x \in \mathbb{F}_{q^m}^n : x_i = 0 \text{ if } i \notin I\}$ for $I \subseteq \{1, \dots, n\}$. $\dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V_I = |I|$.

\mathbb{F}_{q^m} -線形符号 $C_2 \subsetneq C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ の i -th Relative Generalized Hamming Weight (RGHW) [LMHC05]:

$$\min_{I \subseteq \{1, \dots, n\}} \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V_I : \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap V_I) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap V_I) \geq i \right\}.$$

C_1 の i -th Generalized Hamming Weight (GHW) [Wei91]:

$$\min_{I \subseteq \{1, \dots, n\}} \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V_I : \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap V_I) \geq i \right\}.$$

そしてRGRWは,

$$\min \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V : V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap V) \geq i \right\}.$$

RGRWとRGHWの違いは、 C_1, C_2 との共通集合を取る部分空間の集合だけ。

まとめると

- RGRWはGabidulinの最小ランク重みの一般化
- RGRWとRGHWの違いは C_1, C_2 との共通集合を取る部分空間の集合だけ

⇒ これらから「Relative Generalized Rank Weight」という名前に.

- ① セキュアネットワーク符号化の紹介
- ② この発表で紹介する研究の狙い
- ③ 新しい符号パラメータの紹介
- ④ 符号パラメータとセキュアネットワーク符号化の安全性

ネットワーク構造に依存しない安全性

ネットワーク構造に依存せず保障される安全性の評価とは、任意の $B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}$ についての S と XB の相互情報量の最大値

$$\max \left\{ I(S; XB) : B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu} \right\},$$

を評価すること. すなわち盗聴者の行列の集合が $\mathcal{B} = \mathbb{F}_q^{n \times \mu}$ のネットワークを考慮する.

以降, \log 底は q^m とする.

RGRWのセキュアネットワーク符号化への応用

定理 (RGRWのセキュアネットワーク符号への応用)

盗聴者が S の情報を $j \log_2 q^m$ ($1 \leq j \leq \dim_{\mathbb{F}_q} C_1/C_2$)ビット以上得る

$$\max \left\{ I(S; XB) : B \in \mathbb{F}_q^{m \times \mu} \right\} \geq j.$$

\Leftrightarrow

盗聴リンク数 μ が双対符号 C_2^\perp, C_1^\perp の j -th RGRW 以上

$$\mu \geq M_{R,j}(C_2^\perp, C_1^\perp).$$

系

盗聴リンク数が $M_{R,1}(C_2^\perp, C_1^\perp)$ 未満であればネットワーク構造に依存せず S の情報は一切得られない

C_1, C_2 を線形MRD符号に固定した時, Silva-Kschischangの定理と一致する. つまり,

$$M_{R,1}(C_2^\perp, C_1^\perp) = \dim_{\mathbb{F}_q} C_2 + 1.$$

シンクノードでの誤り訂正能力

N 本の入力リンクを持つ1つのシンクノードを固定.

$A \in \mathbb{F}_q^{n \times N}$: ソースノードからシンクノードへの遷移行列 (誤りがなければ XA が受信される)

シンクノードは A を知っていると仮定.

送信経路の途中の t リンクから誤りが乗ってくると仮定.

定理 (RGRWのセキュアネットワーク符号の誤り訂正能力への応用)

シンクノードは, いかなる遷移行列 $A \in \mathbb{F}_q^{n \times N}$, $\text{rank} A \geq n - \rho$ に対しても,

$$M_{R,1}(C_1, C_2) > 2t + \rho$$

が満たされれば, あらゆる t リンク誤りを訂正し s を正しく復号できる.

これも, C_1, C_2 を線形MRD符号に固定した時,
Silva-Kschischangの定理と一致する. つまり,

$$M_{R,1}(C_1, C_2) = n - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 + 1$$

発表のまとめ

まとめ：今日の発表内容

線形符号によるセキュアネットワーク符号化についての最新⁷の結果の紹介

- j -th RGRW $M_{R,j}(C_1, C_2)$ という符号パラメータを提案
- RGRWはGabidulinの提案した最小ランク重みの一般化
- $\max_{B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}} I(S; XB) \geq j \Leftrightarrow$ 盗聴リンク数 $\mu \geq M_{R,j}(C_2^\perp, C_1^\perp)$

⁷そうでもない…

おまけ：産業界でのネットワーク符号化

今現在は、鳴かず飛ばずです。



- ネットワークの人は基盤ネットワークに入れたくない
- 分散ストレージ符号も、広く使われているHadoopなどに入れ込むのは難しい
- etc....

課題点は【既存システムへの導入の難しさ】 【システムデザインから符号化を前提にしなければならない】 【符号化・復号処理の計算量もバカにならない】 など.

それでもネットワーク・無線分野の人なども符号化の有用性は重々わかっているのです、未来はある（と信じている）し、Hetero-genius network, 5G, ICN などの新しいキーワードに関連してくる可能性もある（と信じたい）

補足情報

すべての詳細な証明は以下の原稿に記載.

J. Kurihara, R. Matsumoto, and T. Uyematsu, “Relative Generalized Rank Weight and Its Applications to Network Coding,” Jan. 2013. [Online]. Available: arXiv:1301.5482 [cs.IT]

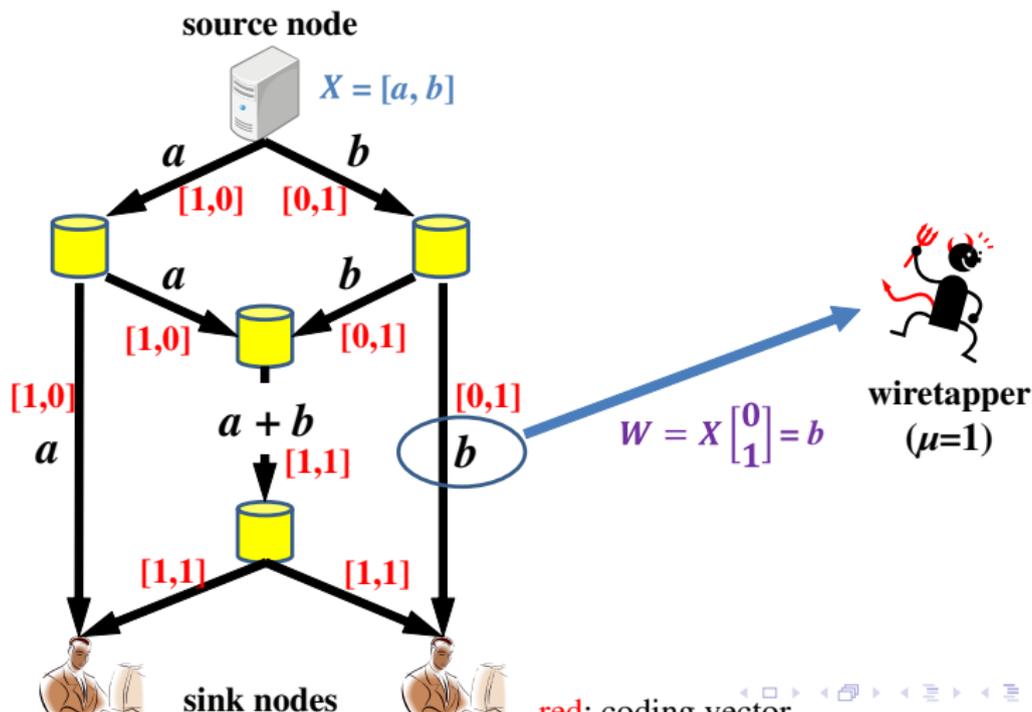
また、GRW (non-relative version, i.e., $C_1 = \mathbb{F}_{q^m}^n$)は同時期・独立に以下の文献でも提案.

F. Oggier and A. Sboui, “On the existence of generalized rank weights,” in Proc. ISITA 2012, Honolulu, Hawaii, USA, Oct. 2012, pp. 406–410.

Appendix

セキュアネットワーク符号化の具体例

$\mathbb{F}_q = \mathbb{F}_5$, $n = 2$, $m = 1$ のネットワーク符号化において盗聴者は任意の $\mu = 1$ リンクを盗聴. 盗聴行列の集合: $\mathcal{B} = \{[1, 0], [0, 1], [1, 1]\}$.

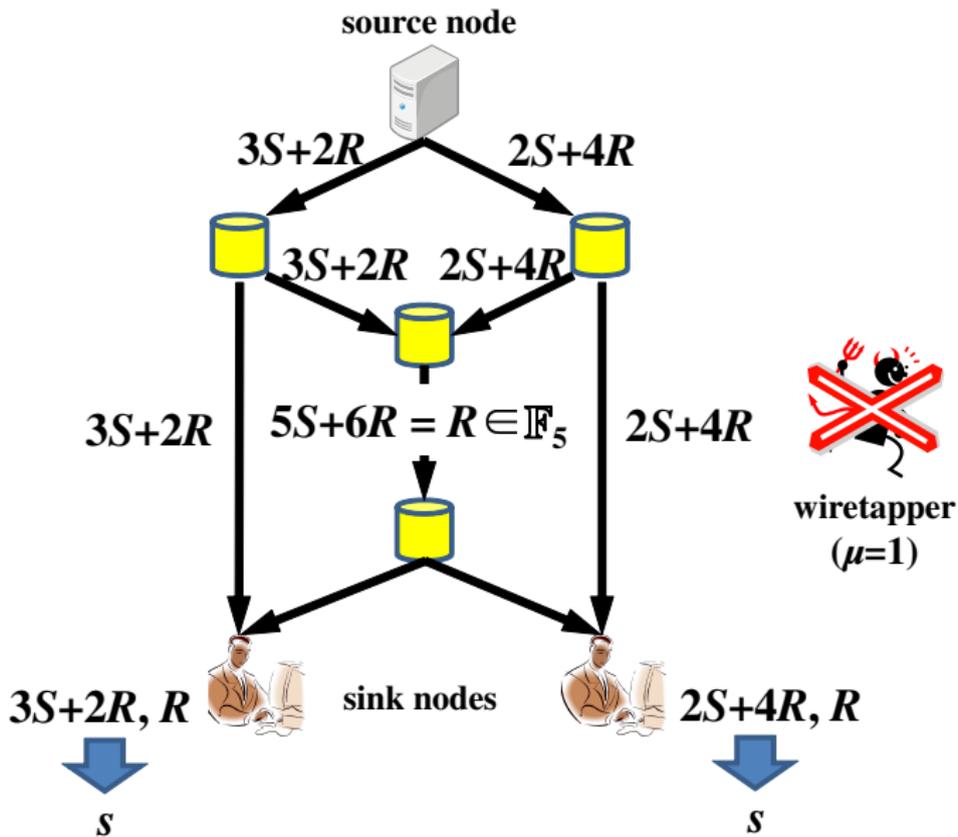


目的：秘密メッセージ $S \in \mathbb{F}_5$ ($l = 1$) を盗聴者に漏らすことなく正しくすべてのシンクノードに送信する.

このときは、例えば一様乱数 $R \in \mathbb{F}_5$ を用いて、 $S \in \mathbb{F}_5$ を X へ以下のように符号化してみる.

$$X = [3S + 2R, 2S + 4R]$$

すると, どの $\mu = 1$ リンクからも S の情報は一切漏洩しない.



Relative Network Generalized Hamming Weight (RNGHW)

(R)GHWをネットワーク符号用に拡張しようという研究はすでに存在 [NYZ11, ZZ09].

ただし, **ユニバーサルな設定ではない.**

- ネットワーク構造を固定, $m = 1$.
- $\mathcal{F} \triangleq$ そのネットワークのすべてのリンク e の符号化ベクトル b_e の集合
- $\Upsilon_{\mathcal{F}} \triangleq \mathcal{F}$ の部分集合で張られる線形部分空間の集合

i -th RNGHW:

$$\min \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V : V \in \Upsilon_{\mathcal{F}}, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap V) \right\}$$

RGRWの Γ (**ネットワーク非依存**)を $\Upsilon_{\mathcal{F}}$ (**ネットワーク依存**)に変えることでRNGHWになる.

RGHWとWiretap Channel II (秘密分散)

Wiretap Channel II [OW84], 秘密分散 [Sha79]:

- 秘密メッセージ $S \in \mathbb{F}_{q^m}^l$ を $X \in \mathbb{F}_{q^m}^n$ に符号化して伝送路を送信
- 盗聴者は X の任意の μ シンボルを盗聴
- S に関する情報を盗聴者に漏らさぬように伝送することが目的

S から X への符号化方法は $C_2 \subsetneq C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ による Nested Coset Coding.

セキュアネットワーク符号化の特殊なケースとみなせる.

$X = [X_1, \dots, X_n] \in \mathbb{F}_{q^m}^n$, $X_I \triangleq (X_i : i \in I)$ for $I \subseteq \{1, \dots, n\}$.

定理 (RGHWのWiretap Chanell II · 秘密分散への応用)

盗聴者が S の情報を $j \log_2 q^m$ ($1 \leq j \leq \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1/C_2$)ビット以上得る

$$\max \{I(S; X_I) : I \subseteq \{1, \dots, n\}\} \geq j.$$



盗聴シンボル数 μ が双対符号 C_2^\perp, C_1^\perp の j -th RGHW 以上

$$\mu \geq j\text{-th RGHW of } C_2^\perp \text{ and } C_1^\perp.$$

系

盗聴シンボル数が C_2^\perp, C_1^\perp の1st RGHW未満であれば S の情報は一切得られない

上記の結果は DOI: 10.1587/transfun.E95.A.2067 [KUM11]で報告

私たちの研究の位置づけ

- Wiretap Channel II(WC2)・秘密分散: セキュアネットワーク符号化の特殊ケース
- 線形符号のRelative Generalized Hamming Weight (RGHW) [LMHC05, Wei91]: WC2・秘密分散における符号化の安全性を示す符号パラメータ



ネットワーク符号化の世界で, WC2・秘密分散とRGHWの関係性と同様の理論を, 符号パラメータの提案から全て構築

漏洩情報量に関する定理

[準備] 条件付きエントロピー[CT06]:

$$\begin{aligned} H(A|B) &\triangleq \sum_{a \in \mathcal{A}, b \in \mathcal{B}} P_{A,B}(a, b) \log \frac{1}{P_{A|B}(a|b)} \\ &= \sum_{b \in \mathcal{B}} P_B(b) H(A|B = b) \\ &= H(A) - I(A; B) \end{aligned}$$

$$I(S; XB) = H(XB) - H(XB|S).$$

S と X の一様分布を仮定していると、 X は C_1 の全要素を実現値として取りうる一様分布の確率変数。このことから、以下が成立。⁸

$$\begin{aligned} H(XB) &= \log_{q^m} \text{ the number of possible } XB \\ &= \log_{q^m} |\text{image of map } C_1 \rightarrow \{XB : X \in C_1\}| \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap \text{Ker}(B)), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} H(XB|S) &= \log_{q^m} \text{ the number of possible } XB \text{ given } S = s \\ &= \log_{q^m} \text{ the number of possible } XB \text{ given } \psi(S) = C_2 \\ &= \log_{q^m} |\text{image of map } C_2 \rightarrow \{XB : X \in C_2\}| \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap \text{Ker}(B)). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって, } I(S; XB) &= H(XB) - H(XB|S) \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 \\ &\quad - (\dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap \text{Ker}(B)) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap \text{Ker}(B))). \end{aligned}$$

⁸任意の分布だと相対エントロピー[CT06]を使って上界・下界を導出。

Extension of Forney's second duality lemma

\mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間 $C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ とその部分符号 $C_2 \subsetneq C_1$, 任意の部分空間 $V \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ について

$$\begin{aligned} & \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2 \cap V) \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 / C_2 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap V^\perp) + \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap V^\perp). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I(S; XB) &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_2 \\ &\quad - \underbrace{(\dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1 \cap \text{Ker}(B)) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2 \cap \text{Ker}(B)))}_{= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} C_1 / C_2 - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \text{Ker}(B)^\perp) + \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \text{Ker}(B)^\perp)} \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \text{Ker}(B)^\perp) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \text{Ker}(B)^\perp) \\ &= \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \langle B \rangle) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \langle B \rangle) \\ &\quad \dots \text{Ker}(B)^\perp = \mathbb{F}_{q^m}\text{-線形列空間} \langle B \rangle \triangleq \{Bx : x \in \mathbb{F}_{q^m}^{\mu \times 1}\} \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n. \end{aligned}$$

RGRWのセキュアネットワーク符号化への応用の定理の証明

相互情報量を $I(S; XB) = j$ 得るために必要な盗聴リンク数の最小値は,

$$\begin{aligned} & \min_{B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}} \{ \mu : I(S; XB) = j \} \\ &= \min_{B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}} \{ \mu : \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \langle B \rangle) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \langle B \rangle) = j \} \\ &= \min_{V \in \Gamma} \{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V : \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap V) = j \} \\ &= M_{R,j}(C_2^\perp, C_1^\perp) \end{aligned}$$

Relative Dimension/Intersection Profile (RDIP)

漏洩情報量の定理の一般化と \mathbb{F}_{q^m} -線形部分空間の q 乗の性質から,

$$\begin{aligned} & \max \left\{ I(S; XB) : B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu} \right\} \\ &= \max_{B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu}} \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2^\perp \cap \langle B \rangle) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1^\perp \cap \langle B \rangle) \right\} \\ &= \max_{V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V \leq \mu} \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2^\perp \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1^\perp \cap V) \right\} \\ &= \max_{V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V = \mu} \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2^\perp \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1^\perp \cap V) \right\} \end{aligned}$$

i -th RDIP

\mathbb{F}_{q^m} -線形符号 $C_1 \subseteq \mathbb{F}_{q^m}^n$ および部分符号 $C_2 \subsetneq C_1$ について, $K_{R,i}(C_1, C_2) \triangleq \max \left\{ \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_1 \cap V) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} (C_2 \cap V) : V \in \Gamma, \dim_{\mathbb{F}_{q^m}} V = i \right\}$.

定理 (RDIPのセキュアネットワーク符号への応用)

μ 本の盗聴リンクから漏洩する S の情報量の最大値は,

$$\max \left\{ I(S; XB) : B \in \mathbb{F}_q^{n \times \mu} \right\} = K_{R, \mu}(C_2^\perp, C_1^\perp).$$

非一様分布への拡張

確率変数 $A, B \in \mathcal{X}$ の確率分布 P_A, P_B 間の相対エントロピー [CT06]:

$$D(A\|B) \triangleq \sum_{a \in \mathcal{X}} P_A(a) \log \frac{P_A(a)}{P_B(a)}.$$

確率変数 $C \in \mathcal{Y}$ が与えられたときの $A, B \in \mathcal{X}$ の条件付き確率分布 $P_{A|C}, P_{B|C}$ 間の相対エントロピー [CT06]:

$$D(A\|B|C) \triangleq \sum_{y \in \mathcal{Y}} P_C(y) \sum_{x \in \mathcal{X}} P_{A|C}(x|y) \log \frac{P_{A|C}(x|y)}{P_{B|C}(x|y)}.$$

$U_{\mathcal{A}}$: \mathcal{A} 上の一様分布の確率変数. 任意の分布に従う S, X に対して,

$$I(S; XB) \leq \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \langle B \rangle) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \langle B \rangle) + D(X\|U_{\psi(S)}|S),$$

および

$$I(S; XB) \geq \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_2^\perp \cap \langle B \rangle) - \dim_{\mathbb{F}_{q^m}}(C_1^\perp \cap \langle B \rangle) - D(S\|U_{\mathbb{F}_{q^m}^l}),$$

が成立する.

参考文献 I

- [ACLY00] R. Ahlswede, N. Cai, S.-Y. R. Li, and R. W. Yeung, "Network information flow," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 46, no. 4, pp. 1204–1216, Jul. 2000.
- [CC11] N. Cai and T. Chan, "Theory of secure network coding," Proc. IEEE, vol. 99, no. 3, pp. 421–437, Mar. 2011.
- [CT06] T. M. Cover and J. A. Thomas, Elements of Information Theory, 2nd ed. Wiley-Interscience, Jan. 2006.
- [CY02] N. Cai and R. W. Yeung, "Secure network coding," in Proc. IEEE ISIT 2002, Lausanne, Switzerland, Jun. 2002.
- [Gab85] E. M. Gabidulin, "Theory of codes with maximum rank distance," Probl. Inf. Transm., vol. 21, no. 1, pp. 1–12, 1985.
- [HMK⁺06] T. Ho, M. Médard, R. Koetter, D. R. Karger, M. Effros, J. Shi, and B. Leong, "A random linear network coding approach to multicast," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 52, no. 10, pp. 4413–4430, Oct. 2006.
- [KUM11] J. Kurihara, T. Uyematsu, and R. Matsumoto, "Secret sharing schemes based on linear codes can be precisely characterized by the relative generalized Hamming weight," IEICE Trans. Fundamentals, vol. E95-A, no. 11, pp. 2067–2075, Nov. 2011.
- [LMHC05] Y. Luo, C. Mitropant, A. J. Han Vinck, and K. Chen, "Some new characters on the wire-tap channel of type II," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 51, no. 3, pp. 1222–1229, Mar. 2005.
- [LY03] S.-Y. R. Li and R. W. Yeung, "Linear network coding," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 49, no. 2, pp. 371–381, Feb. 2003.
- [NYZ11] C.-K. Ngai, R. W. Yeung, and Z. Zhang, "Network generalized Hamming weight," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 57, no. 2, pp. 1136–1143, Feb. 2011.
- [OW84] L. H. Ozarow and A. D. Wyner, "The wire-tap channel II," AT&T Bell Labs. Tech. J., vol. 63, no. 10, pp. 2135–2157, Dec. 1984.
- [Sha79] A. Shamir, "How to share a secret," Commun. ACM, vol. 22, no. 11, pp. 612–613, 1979.

参考文献 II

- [SK11] D. Silva and F. R. Kschischang, "Universal secure network coding via rank-metric codes," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 57, no. 2, pp. 1124–1135, Feb. 2011.
- [Sti90] H. Stichtenoth, "On the dimension of subfield subcodes," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 36, no. 1, pp. 90–93, 1990.
- [Wei91] V. K. Wei, "Generalized Hamming weights for linear codes," IEEE Trans. Inf. Theory, vol. 37, no. 5, pp. 1412–1418, May 1991.
- [ZZ09] Z. Zhang and B. Zhuang, "An application of the relative network generalized Hamming weight to erroneous wiretap networks," in Proc. IEEE ITW 2009, Taormina, Sicily, Italy, Oct. 2009, pp. 70–74.